

ハイブリッド授業型大学院

東北学院大学学長 大西晴樹



現代の特徴について考えると、産業・技術の高度な発達の結果、社会における分業と交換の進展が加速化し、知識の専門化が著しく進行している時代だと言えます。このような時代だからこそ専門家を育て、社会人の学び直しのための大学院教育の重要性が注目されています。また、高学歴化が進み、学問的な動機付けも多様になっています。

このようなニーズに応えるために、本学大学院は学都仙台の中心という利便なキャンパスにあって、文学、経済学、経営学、法学、工学、人間情報学という6つの研究科を擁し、広い領域を網羅しています。また、複数の入試制度のほか、社会人の学びにも対応した昼夜開講制やハイブリッド型授業（対面授業と遠隔授業の併用）、長期履修制度、科目等履修生制度などを設け、学部から学びを直接継続する学部生にも、大学卒業後一定期間を置きながらも仕事に従事する中で専門的知識の必要性を痛感する社会人にも、「カルチャーセンター」での学びでは満たされない市民にも、すべてに門戸を開いているのが本学大学院の特長です。

本学大学院は“ハイブリッド授業型大学院”を標榜します。それぞれの教授から直接対面で指導を受け、志を同じくする研究科の仲間と切磋琢磨し、修士論文や博士論文に取り組むことが基本になりますが、それ以外にもオンラインでの講義や演習も併用し、多忙な社会人の受講にも配慮します。講義や演習では、対面とZoomの併用や大型電子黒板と話者追尾型カメラを備えたハイブリッド型授業用教室を活用して、指導教授の修士論文、博士論文指導の授業の半分程度は対面授業であること以外、遠隔授業で単位を履習することが可能となっています。

また、長期履修制度についていえば、これは職業を有する方や、大学卒業後3年以上を経過している方（定年退職者を含む）や育児や介護などで研究時間の制約を受ける方などを対象に、入学時の就業環境に応じて在学年限の範囲内（博士課程前期4年、博士課程後期6年）で、指導教授と相談のうえ、1年単位で長期履修期間を定めることができる制度です。在籍期間が長期化しても授業料の総額はそれぞれ必要とされる在籍期間（博士課程前期2年、博士課程後期3年）の授業料となり、履修期間に応じて、授業料を分割払いすることができるメリットがあります。詳しくは、ホームページと募集要項を参照してください。



キリスト教に基づく人間教育という建学の精神の上に、高度な専門知識を研究活動という調査能力、思考能力、発表能力の涵養を通じて身に付け、税理士や公認心理師、データサイエンティスト、中学校・高等学校教諭専修免許状などの資格取得も視野に入れ、現代社会が直面する様々な課題に大学院で取り組んでいただきたいと思います。

本大学院の組織図



教育目的

本大学院は、キリスト教による人格教育を基礎として、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて広く文化の進展に寄与することを目的としています。

課程の目的

博士前期(修士)課程は、広い視野に立った精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業などに必要な高度の能力を養うことを目的としています。

博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としています。

